

prologue

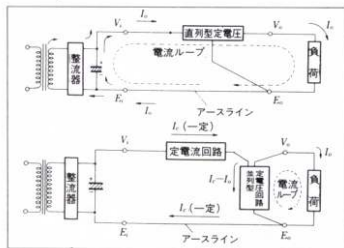
音楽の、演奏家の自由闊達なステージを支えるものが弛まぬレッスンの積み重ねであるのと同じように、オーディオアンプにおいてもその電源部は信号回路が能力をフルに発揮するためのゆるぎない大地でなければなりません。新しいプリアンプCA-Yの開発にあたってはやはりその電源部を重視したのは言うまでもありません。CA-Xで完成したスーパーシャントレギュレーターを採用したのははじめ、アンプの音を決める3要素——回路、電源、使用パーツのそれぞれに最善を尽くし、さらに操作性、デザインにも私たちのポリシーを反映させたのがこのCA-Yです。再生される音が測定やスペックを超えて、演奏家の“熱”を伝える音楽となることを祈って——いまCA-Y。

power supply

電源の構成や種類によって音が変わる、ということは、最近とみによく知られてきた事実ですが、それでは一体どういう特長を持つ電源が理想的なのでしょうか。アンプの信号回路は直流電圧によって動作します。したがって供給される直流の安定度が高ければ高い程、つまり音楽の刻々としたダイナミックな変化にも常に一定の電圧を供給できる電源が最も優れたものと言えます。さらに電源自体が発生する種々のノイズ特性も見落すわけにはいきません。理想とは何か。私たちはあのCA-Xの開発にあたって、ほぼ理想的とされるバッテリーの研究から始めました。たたみ一畳位にもなるバッテリーでアンプの電源をつくり、ヒアリングをしてみると一般的な定電圧電源に比べて明らかな違いを聴きとることができます。それも部分的な違いというよりも音楽全体の演奏の良し

悪しを変質させてしまう程、大きな差なので。私たちはここに大きな目標を得、これを凌駕すべく開発を重ねた末に、バッテリー電源を上回る性能を持つ電源を完成したのです。これをスーパーシャントレギュレーター (PAT.PEND.) と名付けました。

① 出力インピーダンスがDC~100KHzまで1mΩ以下、② ACラインから混入するノイズ

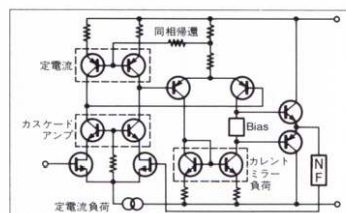
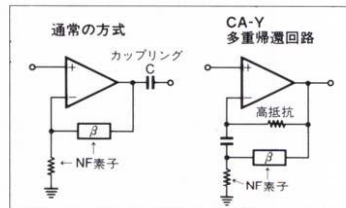


を取り除く性能を示す電源雑音除去比が、100KHzまで-106dB以下、③ アース電位が負荷変動に影響されない、④ 電源部内部雑音が極めて低い、0.2μV以下 (IHFA)。これがCA-Yに搭載された電源部の特長とスペックです。この電源にしっかりと支えられて信号回路は、その持っている能力をフルに発揮するのです。

circuit

DCアンプが世の中に登場してアンプの音質が一段と向上したのは、記憶に新しいことです。その開発テーマはより広い再生周波数帯域を目指したもので、低域に位相歪の原因となる時定数をもたないことを特長としています。しかし、大きな増幅度をもつプリアンプにおいては、DCドリフトを除去するためにカップリングコンデンサーが必要でした。このカップリングコンデンサーには、前段で増幅された信号のすべてが通ることになりますからこれの音質への影響は極めて大きいものがあり、これを取り去るために回路は複雑になりますが、サーボ回路や熱帰還法が採られたりします。しかし、スタックスでは極めて合理的にしかも単純な回路—多重帰還—を考案。カップリングコンデンサーを追放して、MM入力からプリアウトまで文字通り“直結”し、大容量のカップリングコンデンサーを使わずに、低域のカットオフ周波数を下げられるというメリットを生みだしました。このようにして無理なく広帯域設計が実現したわけです。

基本回路は、イコライザーアンプ、フラットアンプともに差動2段にA級SEPPパワファンプを追加した構成となっており、初段にはローノイズワンチップデュアルFETを使用、2段目から初段に同相帰還を施して直流安定度を高めています。



電源重視の またひとつプリアンプの名

